

③グローバルな視点からの地域課題解決について

A) 「震災復興と被災地の取組みから考えるふるさと創生」～東北から学ぶ 町おこし～ 笠岡 庸、西 佳乃子、西井 レオン、福井 優、藤井 俊輔

震災復興と被災地の取組みから考えるふるさと創生～東北から学ぶ 町おこし～

能勢高校 SGS A班(国内班)
笠岡庸 福井優 藤井俊輔 西佳乃子 西井レオン

1



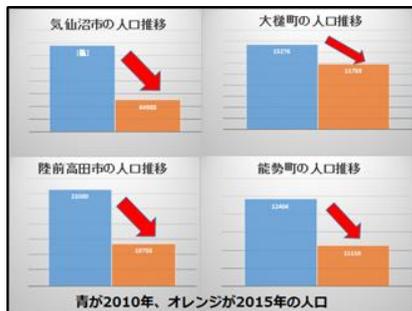
2

それぞれの地域の人口減少の比較

	2010年 (人)	2015年 (人)	減少量 (人)	減少率 (%)
気仙沼市	73,489	64,988	-8,501	11.6
陸前高田市	23,300	19,758	-3,542	15.2
大槌町	15,276	11,759	-3,517	23.0
能勢町	12,404	11,116	-1,288	10.4

出典:国勢調査

3



4

人口減少の原因を比較

東北地方

- 津波による人口減少
- 復興の遅延によるリターン者の減少
- 震災で夫をなくした女性が実家に帰省

5

人口減少の原因を比較

能勢町

- 町内に働く場所が少ないため、外に出て稼がなければならない
- 能勢自体の魅力が乏しい
- リターン者が少ない
- 町外から移住者が少ない
- 町の子供が少ない

6

実態調査で聞いたこと

- 気仙沼高校生
震災後も、前向きに今後の気仙沼市の為の課題研究をしていた
- 陸前高田市長
ノーマライゼーション計画を基に住みやすい街づくりに向けて取り組んでいる

7

実態調査で聞いたこと

- 大槌町長
復興の際にできた色々な人たちの繋がりをとても大事にしている
- 大槌高校
『復興研究会』という活動で、震災の経験を後世に残していく取り組みなどを活発に行っています

8

実態調査での印象に残ったこと

- 大槌町長
→人の繋がりを大事にしている
- 陸前高田市長
→交流人口を増やす

9

リターン者の減少を防ぐために能勢町ももっと他の市町村との繋がりを持つべきでは？

10

交流人口を増やす観光プロジェクト

- 自然を活かした観光事業
 - 農業体験・植林体験
 - 生物多様性を活かしたガイドマップ
- 能勢町内で外に向けた能勢町の季節ならではのイベントを増やす(栗拾い、マス釣り、能勢高校と連携した取り組み)

11



12

「森は海の恋人」とは？

活動したきっかけ
赤潮被害+ダム建設→解決策

13

「森は海の恋人」とは？

視点を海ではなく上流の山や川に着目した。すると、森が海にとってとても重要な役割を果たしていることに気づき、植林をすることで豊かな海に変わった。

14

自然環境の課題の比較

東北地方

- 津波による塩害
- 復興のための土地開発
- 津波で森が流された
- 震災による地盤沈下
- 風力発電設備の増加
- 嵩上げ工事による陸部を切り開く
- 里山の管理者の減少

能勢町

- 里山の管理者の減少
- 野生生物の増加により農家被害が増加している

15

里山に着目した理由

「森は海の恋人」の活動で、海だけで考えるのではなく上流の河川や森林も含めて考えるのが良いと教わり

複合的に考えた！

16

なぜ里山が必要か？

- ・環境悪化に直結する
- ・土砂崩れ 河川の氾濫
- ・生態系の乱れ
- ・景観の悪化



17

里山の問題点

- ・管理者が少ない
 - ・管理することが利益ではなく慈善活動になっている
 - ・管理することが面倒
 - ・体への負担が大きい
 - ・覚える知識と技術が多そう
 - ・里山の仕事を本業にはできない
 - ・生業の変化



- ・近代化につれて、里山に対する意識が風化している

18

問題の解決法の提案

1. 里山を利用する考え
 - ・里山を管理するにあたって生じた廃材を自分たちの生活の中で利用する
2. 里山を管理することに利益を持たせる
 - ・里山の管理で出た廃材を加工して販売する
3. 里山管理の負担を減らす
 - ・里山を管理する組合などをつくって、複数人で管理する
 - ・里山管理のノウハウに対する講習費用がある程度、国が負担(要相談)

19

能勢町も「森は海の恋人」プロジェクトの成功例に則り

能勢だけを見るのではなく、
能勢のまわりの環境に注目して
みてはどうだろうか？

20

例えば、能勢を流れる川は一庫ダムに流れ、川西市、池田市、伊丹市、尼崎市、西淀川区を流れ、大阪湾に繋がっていく

このような能勢との関係性に注目して
前述の地域などの方々に

興味を持ってもらう！！

21

交流人口を増やす観光プロジェクト

- ・自然を活かした観光事業
 - ・農業体験・植林体験
 - ・生物多様性を活かしたガイドマップ
 - ・能勢町内で外に向けた能勢町の季節ならではのイベントを増やす(栗拾い、マス釣り、能勢高校と連携した取り組み)



22